

男女共同参画社会をめざす広報誌

ひらく

一点を支点としてひらく／窓・扉を
ひらく／道をひらく／口・目をひらく／
花がひらく／運をひらく／文化を
ひらく／インターネットをひらく／新
聞・本をひらく／講座・会をひらく

— 未来をひらく、心をひらく —

特集

実行委員が選んだ
本の中の男女共同参画



2025.10

57

母親ってなに？



一昔前は、母親が家事・育児を全て担っている家庭が多くたんですよね。

母親は母性に満ちあふれ、暴力とは無縁だと思われがちですよね。



そうですよね。でも、『母という暴力』という本では、躊躇としてこどもに暴力をふるうことを繰り返してしまった母親について描かれていて、とても考えさせられます。

そもそもこどもといふ時間が長いからこそ、母親はイライラしてしまうことが多いですよね。



イライラを解消するためなのか、躊躇なのか、お母さんが娘にだけ手伝いをさせる家庭もありますよね。

『いいたいことがあります！』にはそんな家庭が出てきます。娘さんが自分の心と向き合うことで家族の在り方が変わっていくお話。登場人物と同じ思春期や更年期の年代の方にオススメです。



『母という暴力』
芹沢俊介・著
春秋社
△市内図書館蔵



『いいたいことがあります！』
魚住直子・著
西村ツチカ・絵
偕成社
△“ひらく”蔵

見方がかわる…



男性の生きづらさの本もトレンドですよね。



例えば、『よかれと思ってやったのに男たちの「失敗学」入門』を読むと、そんな様子が描かれています。



同じ著者のその後の作品で『戻れないけど、生きるのだ 男らしさのゆくえ』。これもいいですよ。



筆者自身が男性について、ぐいぐいと踏み込んでいるところが確かに面白いですね。



男性つながりでいくと『おじさん図鑑』は、美大生のするどい観察眼と画力が活かされた1冊です。

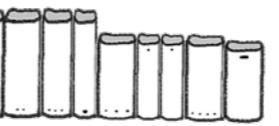


私も読みました。取材のためなら、長時間に及ぶ観察をも厭わない頼もしさを感じますよね。

特集

実行委員が選んだ

本の中の男女共同参画



小平市男女共同参画センター“ひらく”（以下“ひらく”）だけではなく小平市立図書館にある本も含めて、男女共同参画推進実行委員がそれぞれ本を選んで、7つのテーマで紹介し合ってみました。

時代の変化なのか、生きづらさ



生きづらさといえば、人間関係が引き金になることもありますよね。



イラストたっぷりの本、『女って何だ？ コミュ障の私が考えてみた』があります。女性間のつきあいの難しさがテーマになっているようです。



仕事からくるストレスで「うつ」になって、生きづらさを感じることもあります。



仕事は本当にストレス源ですね。



『なぜあのは、仕事中だけ「うつ」になるのか』は、30代の「うつ」の症例を中心に新型うつについて考察しています。

女らしさ、男らしさ



「女の子なんだから、○○しなさい」と言われたことはありますか？



来客のとき、お茶出し係は私でした。将来、役に立つと言われて。



最近は、「らしさ」の感覚も変わってきています。公立中学校の制服で女子がスラックスにブレザー、ネクタイを選択できるみたいですよ。近所で見かけました。



選択できることは良いことですね。



選択の自由がなかった200年近く前に果敢に自分を通した女の子の物語を知っています。



『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』の絵本ですよね。



女らしくもなく、男らしくもなく、「わたしはわたしのふくをきているのよ」と主張し、ズボンをはきつけた女の子の物語です。



『よかれと思ってやったのに男たちの「失敗学」入門』
清田隆之・著
晶文社
△“ひらく”蔵



『戻れないけど、生きるのだ 男らしさのゆくえ』
清田隆之・著
太田出版
△市内図書館蔵



『おじさん図鑑』
なかむらるみ・絵・文
小学館
△“ひらく”蔵



『なぜあの人は、仕事中だけ「うつ」になるのか』
香山リカ・著
PHP研究所
△“ひらく”蔵



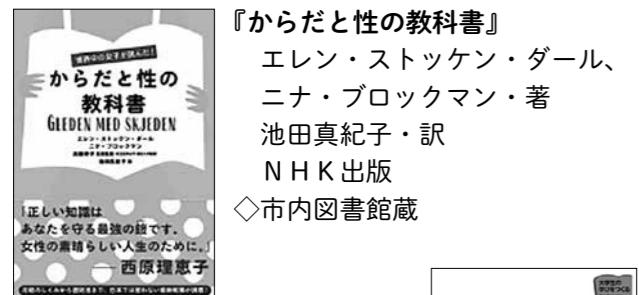
『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』
キース・ネグレー・作
石井睦美・訳
光村教育図書
△市内図書館蔵

『なぜ男女の賃金に格差があるのか
：女性の生き方の経済学』
クラウディア・ゴールディン・著
鹿田昌美・訳
慶應義塾大学出版会
◇“ひらく”蔵

『選択的夫婦別姓は、
なぜ実現しないのか？』
ジェンダー法政策研究所
辻村みよ子、糠塚康江、
大山礼子ほか
花伝社
◇“ひらく”蔵



“ひらく”的書棚には男女共同参画に関する
約700冊の本があります

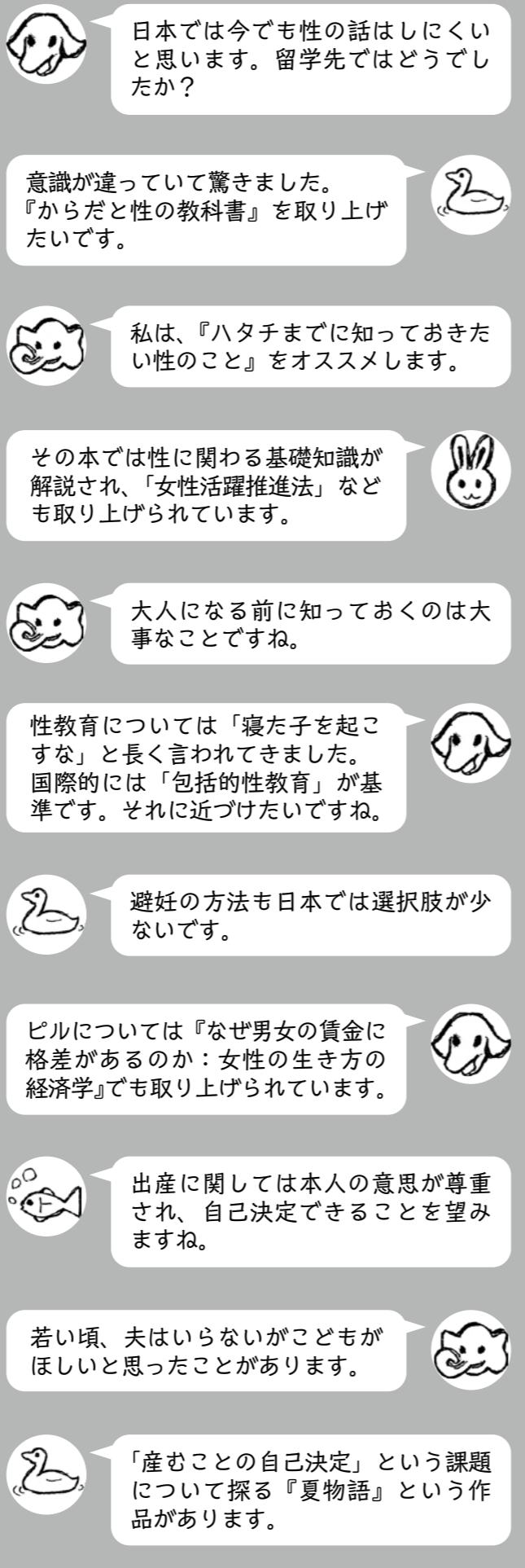


『ハタチまでに知っておきたい
性のこと』
橋本紀子、田代美江子、
関口久志・編
大月書店
◇市内図書館蔵

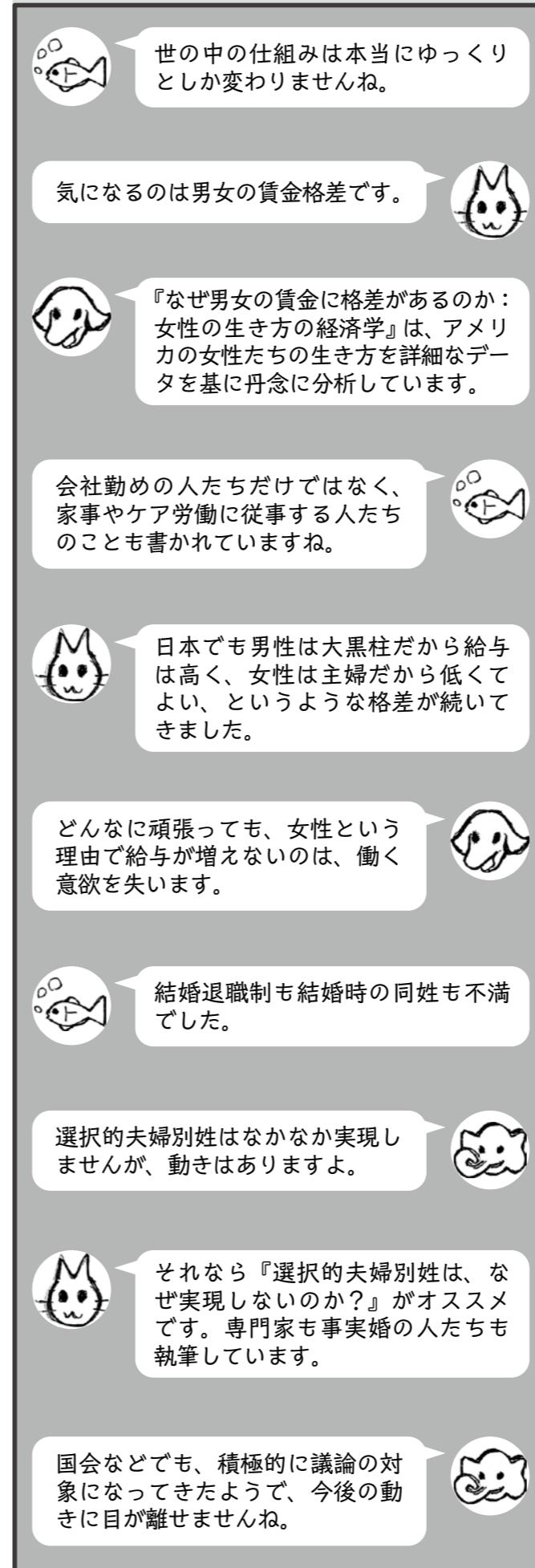


『夏物語』
川上未映子・著
文藝春秋
◇市内図書館蔵

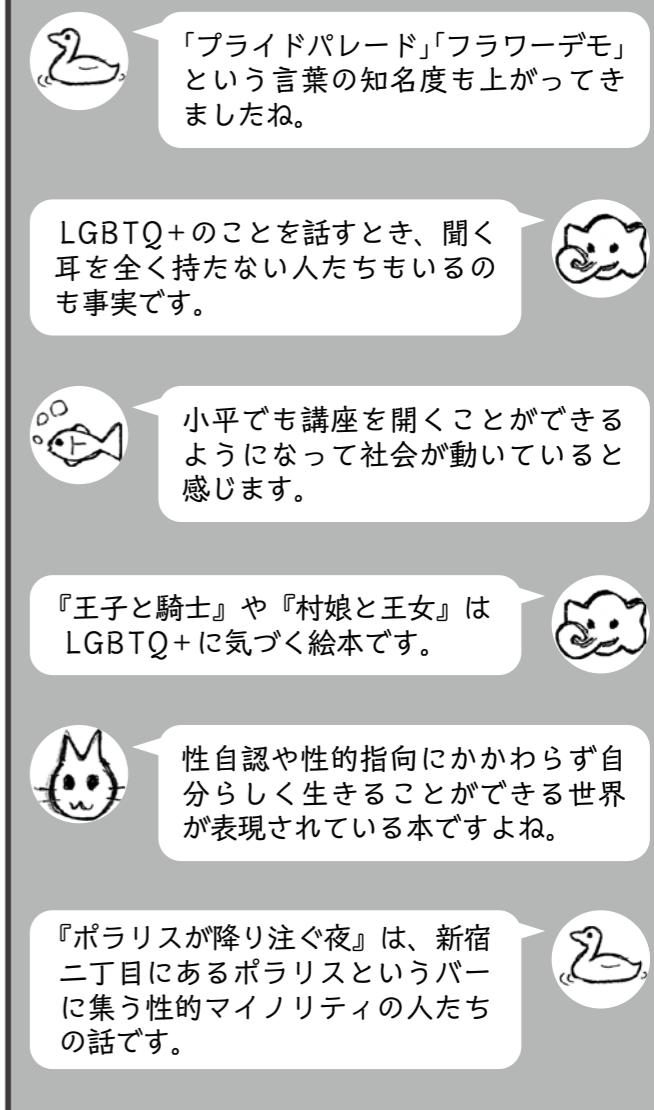
性のこと



ゆっくりゆっくり変わる社会制度



LGBTQ+に気づく



『王子と騎士』

ダニエル・ハーク・作
スティーヴィー・ルイス・絵
河村めぐみ・訳
オークラ出版
◇“ひらく”蔵

『村娘と王女』

ダニエル・ハーク、イザベル・ギャルーポ・作
ベッカ・ヒューマン・絵
河村めぐみ・訳
オークラ出版
◇“ひらく”蔵



『ポラリスが降り注ぐ夜』
李琴峰・著
筑摩書房
◇市内図書館蔵

行ってみました



日本初の女子留学生、女子高等教育の先駆者といえばこの方！

新五千円札の肖像にもなった津田梅子を追うべく

『津田梅子資料室』に実行委員3人で訪問しました。

津田梅子資料室は小平市津田町にある津田塾大学（星野あい記念図書館2階）にあります。

津田梅子（以下、梅子）は明治時代に岩倉使節団に随行して渡米した日本人初の女子留学生の一人です。留学を経験したこと、日本の女性への教育の必要性を感じた梅子は、女子英学塾（現：津田塾大学）の創設を決心します。資料室では、梅子の生き立ちから女子英学塾創設までの歴史をたどることができます。

令和6（2024）年10月13日から令和7（2025）年9月30日までのおよそ1年間、企画展「新紙幣発行記念「一新紀元～新しい時代の始まり～」が開催されました。梅子が五千円札の肖像に選ばれたことを記念しての展示です。



企画展のポスター

資料室に入ると、梅子の出自や家族のこと、留学時代のエピソードが目に入ります。わずか6歳でアメリカへ渡った梅子は、11年後に帰国した際には日本語をほとんど覚えていなかったそうです。そこから女性の教育の改革を行ったのですから、梅子の優秀さと努力に脱帽します。

資料室の展示で印象的だったのは、梅子が女子高等教育の重要性を訴える活動の際に、アメリカではヘレン・ケラー、イギリスではナイチンゲールとの交流もあったことです。教育や制度の発展に貢献した女性同士の関わりは、互いにどのような影響を与えたのだろうと想像が膨らみます。

教鞭を取った女子英学塾の様子も写真とともに展示されています。女子英学塾の学生による英作文が展示されており、そこには梅子による添削のあとがびっしりと刻まれていました。熱心な教育がされていたことが伺えます。準備を怠って英作文の授業に臨むと、梅子はとても怒ったというは、津田塾大学の学生の間でも有名なエピソードだそうです。そんな梅子の英語への情熱は現在の津田塾大学でも受け継がれており、やはり英作文の授業では厳しい指導を受けるのが津田塾大学の学生の通過儀礼なのだろう。

企画展では、梅子が五千円札の肖像に選ばれることになった経緯だけでなく、紙幣や造幣局についても学ぶことができ、興味深い展示でした。また、津田塾大学に在籍する男女共同参画推進実行委員によると、大学では梅子が五千円札の肖像に選出されたことを記念して、梅子グッズやLINE

スタンプが作られるなど、お祭りムードだったそうです。

日本の近代化における女性の役割を大きく変え、社会全体に影響を与えた梅子。

「何かを始めることはやさしいが、それを継続することは難しい。成功させることはなお難しい。」

彼女の言葉から男女共同参画についても考えさせられる時間になりました。



男女共同参画推進実行委員の3人

認定資格 こども家庭ソーシャルワーカー

こども家庭福祉分野で働くソーシャルワーカーの専門性向上を目的とした認定資格で、令和7(2025)年3月に第1回の試験が実施されました。管轄はこども家庭庁。こども家庭ソーシャルワーカー認定資格特設サイトによると、資格創設の背景として「児童虐待の相談対応件数の増加など、子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきている状況等を踏まえ、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化等を行うために、令和4年6月、児童福祉法が改正されました。改正の一つとして、こども家庭福祉の実務経験者の専門性の向上を目的に、この認定資格が創設されました」とあります。令和7(2025)年5月に全国で703人の合格発表があり、小平市でも合格した方が働いています。



皆さんのお寄せください。

メールアドレスや
二次元コードなどから
お寄せください。

●市民協働・男女参画
推進課へメール
danjokyodo-sankaku
@city.kodaira.lg.jp



撮影：長塚 秀人

表紙について

小平市西部にある東京都薬用植物園の温室には力力オの木もそびえ立つ。写真で見たとおり、本当に幹から直に力力オの実がなっている。見学中、インドでとれた力力オと沖縄の黒糖とでチョコレートをつくる「フェアトレード団体の力力オプロジェクト」を思い出した。沖縄県の島で力力オの苗も育てていて、将来的には力力オを収穫する計画。いろんな人たちの力で動く力力オプロジェクトにあやかりたい。男女共同参画社会への活動もいろんな人たちの関わりで進んでいく。

広報誌『ひらく』の
バックナンバーはこちら



ひらくはココにあります。

市役所、東部・西部出張所、男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11か所）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、郵便局（17か所）、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、和食処 楠
小川西町	たましん小平支店、小川ホーム
小川東町	ギャラリー青らんぎ
上水本町	アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロン サンローズ、美容室ヘアーグラシュー、ヘアーサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらき鍼灸治療院
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、ふく歯科、美容室 Je、とりあん、Kimamaya T&K、宮鍋園本店
仲町	小平消防署
鈴木町	egg Cafe
天神町	ビレッジグリーン
美園町	カフェラグラス、珈琲の香、POEM (ぽえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ボリビア
大沼町	ガスミュージアム
花小金井	公立昭和病院、小平福祉園

- 今年度初めて実行委員に参加させていただきました。自分自身が「男女共同参画推進実行委員会」の活動自体をよく知らなかつたので、学ばせていただきながら楽しくお手伝いを出来ればと思っております。
- 今回初めて編集に携わりましたが、自分の知らなかつた書籍や地域の活動について知ることができました。今後も小平市で行われる取り組みにアンテナを張つて学んでいきたいです。

編
集
後
記



玉川上水とともに小平で育つ

小平市の中公園東側に位置する雑木林で〈月夜の幻燈会〉を主催する「どんぐりの会」のメンバーである鍵本景子さんを紹介します。

鍵本さんはNHK連続テレビ小説「ひらり」に主人公の姉(みのり)役で出演されていました。

幼稚園、小学校、中学校、高校と小平の学校に通い、ずっと小平市在住です。小平市の自然に深い思い入れがあるのはそのためでもあるのでしょうか。以下は鍵本さんのお話です。

子育てを始めたころ、中央公園のプレーパークで仲間と出会い、いろいろと話すうちに、こんな素敵な雑木林が道路計画でなくなってしまう!?自分たちで何か行動できないものかと考え始めるようになりました。そして、2009年秋に実現したのが〈月夜の幻燈会〉です。

幻燈会のスクリーンには縦4m、横5mほどの防炎シートを使用し、上部には物干し竿2本を繋いだものを取り付けピンとさせ、その両端をプレーパークのロープワーク担当スタッフが巧みに大きな木に結び付けます。

観客席は桟敷席、いす席、立見と訪れた方が思い思いに選びます。途中で風が吹いてきたり、散歩途中の犬の鳴き声が入ったり、虫の音も響きます。屋外ならではの良さがあります。

幻燈会を始めたばかりの頃は自転車発電で電力を賄っていたので途中で電力不足になるのを避けるため隣の団地の方のご厚意で何とか乗り切ったことも!

また、雨が降ってしまっては幻燈会は行えません。必ず土曜日に開催、雨の場合は日曜日に順延、さらに日曜日も雨ならば近隣の公民館ホールを押さえておくという策を取っています。それでも、いいよ開演という段階で雨が降り出し、がっかりすることももちろんありました。それでもなお雑木林での上演にしたいのには理由があります。開放的な自然の中で様々な人がふらっと訪

俳優・朗読者
鍵本 景子(かぎもと けいこ)さん

れ格差もなく楽しめることに価値があると考えるからです。資金は賛同人を募集し賛同金を集めたり、投げ銭大歓迎などで賄っています。いろいろありましたが、2009年から初めて2025年5月には第28回公演となりました。次回は2025年11月1日(土)の予定です。

作画、幻燈機操作の小林敏也さんは幻燈会のために演出や細かい手直しなども惜しみなく行ってくれています。朗読者の私と、篠笛の植松さんやパーカッションの入野さんとは、細かい打ち合わせや間合いを合わせるために、新作ならば5回くらいのリハーサルを重ねています。

幻燈会の活動の他に2020年から、沖縄慰靈の大型紙芝居作品の公演も続けています。2020年の沖縄慰靈の日から始め、15回目を鷹の台のカフェにて迎えました。ノーベル平和賞候補にもなった丸木俊・位里ご夫妻の画風はとても迫力があり訴えかけてきます。

鍵本さんは「これからも雑木林の自然がある限り幻燈会は継続したいと思います。」と、きりっとした表情で締めくくっていました。

※どんぐりの会ホームページ <http://dongurinokai.net/>



月夜の幻燈会の様子

男女共同参画週間講演会

ジェンダー平等をめざして自分の中の思い込みを知る

令和7(2025)年6月7日(土) 小平市中央公民館ホール

講師 櫻井 彩乃さん 一般社団法人GENCOURAGE代表理事



「これまでのあなたの人生を否定するものではない」「個性や能力は性別に関わりない」という講師の説明で講演は始まりました。高校2年生のときからジェンダー平等に関心を持った講師は、一般社団法人GENCOURAGEをつくって学び合っています。また、30歳未満の声を政権に届ける活動もしています。講演では、タイトルどおりの、男だから女だからという思い込みに気づく話がたくさんありました。参加者にも時々質問がとぶ参加型の講演会は「あなたの住むまちにある男女共同参画センターのイベントに参加してほしい」という言葉と、それが行動を起こすこと(アクション)を促す言葉で終わりました。

ひらく

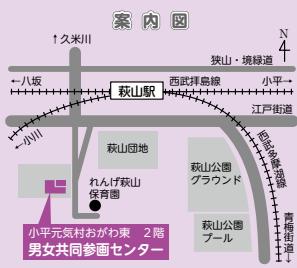
第57号
令和7(2025)年
10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575
✉ danjokyodo-sankaku@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会
伊藤 純子 川口 遥花 高橋 雅子
谷原 裕子 中村 幸世 萩原あかり

小平市男女共同参画センター“ひらく”

- 〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東 2階
042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分～午後5時)
西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口から徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください
- 開館時間 午前9時～午後10時
 - 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
 - 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
 - 問合せ先 地域振興部市民協働・男女参画推進課
042-346-9618



『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るための広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。